The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジー選択に対する学習者要因の影響 : 日本在住のタイ人日本語学習者を対象に
Author(s)	アッタイエム, タナポン
Citation	日本語・日本文化研究. 2019, 29, p. 310-319
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73716
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジー選択に対する学習者要因の影響
―日本在住のタイ人日本語学習者を対象に―

アッタイエム　タナポン

1. はじめに

言語の学習において、「語彙」の学習は不可欠な要素の1つである。しかし、時間が限られた実際の授業の中では教師が学習者に必要なすべての語彙を教えるのは不可能であるため、語彙学習については、ある程度学習者の自学自習に任せることになる。よって、学習者の効率的な語彙学習を支援するために、教師側がどのように語彙を教えるかだけでなく学習者側もどのように学んだ方がいいかを検討する必要がある。

近年の語彙学習ストラテジー研究では学習者のストラテジー選択に強く関わっている要因がいくつかあることが指摘されている。例えば、学習者はどこで日本語を学習しているかという学習者の学習環境、日本語能力などである。しかしながら、これらの各要因をそれぞれ調べた先行研究はあるものの、同じ日本語学習者を対象に学習者のストラテジー選択に関わる複数の要因を同時に検討することはなかった。そこで、本研究では、効果的な語彙学習ストラテジーを検討するためには、まず、学習環境などのような要因と語彙学習ストラテジーの関係を調査する必要がある。

以上を踏まえ、本研究では日本在住タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジーを明らかにすることと、学習の態度と自己評価による成功度という要因と語彙学習ストラテジーがどのように関係しているかということを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 語彙学習ストラテジーの定義

学習ストラテジーの定義及び分類で代表的な研究として、Oxford (1990) が挙げられる。Oxford (1990) は、学習ストラテジーを「学習をより易しく、より速く、より楽しく、より自主的に、より効果にし、かつ新しい状態に素早く対処するために学習者がとる具体的な行動である」と定義した。そして、学習ストラテジーを、直接ストラテジーと間接ストラテジーの大きな2つのカテゴリーに分類した。直接ストラテジーはさらに記憶ストラテジー、認知ストラテジー、補償ストラテジー、間接ストラテジーはメタ認知ストラテジー、情意ストラテジー、社会的ストラテジーの6つのカテゴリーに分けられる。しかし、これら全ては言語学習全般に関係するもので、語彙学習ストラテジーに焦点を当てたものではない。

語彙学習ストラテジーに特化したものとしては、Nation (2001) がある。Nation (2001) では、①選択ができる、(複数のストラテジーの中から選べる) ②複雑である、 (複数の学

習段階がある) ③トレーニングによって、知識が増え、利益が得られる。④語彙の学習と使用の効率が高まるといった4条件を満たすものが語彙学習ストラテジーだとされる。

以上の先行研究における言語学習ストラテジー及び語彙学習ストラテジーの定義を踏まえ、本研究では「語彙学習ストラテジー」を「ある学習の成功を目的にして、学習者が自分の学習で最大の効果を発揮しようとするために用いる様々な手段、方法、行動」と定義する。

2.2 日本語学習者を対象にした語彙学習ストラテジーについての研究

外国語として日本語を学ぶ人を対象とした語彙学習ストラテジーの研究は、これまで多くなされている。その多くは、Oxford (1990) のストラテジーの分類を参考に、それらを見直して日本語学習者の語彙学習ストラテジーを調査したものである。

まず、横須賀 (1995) では、Oxford (1990) のストラテジー分類に基づいて、日本語の語彙学習ストラテジーを調査し、上位群の選択したストラテジーが有効なストラテジーである可能性があると結論づけた。しかし、対象者の中には日本に留学した経験がある者もいるため、有効とされた語彙学習ストラテジーは学習環境による影響も否定できないと考えられる。さらに、これまでの研究ではJFL環境にある学習者を中心に研究が行われてきた傾向にあることから、JFLと異なる学習環境にあるJSL学習者が使用している語彙学習ストラテジーについても検討する必要がある。

また、学習者の語彙学習ストラテジー選択には，学習環境以外に学習者の個人的な要因が関わっている（朴 2010）との報告もある。朴 (2010) は、四年制大学の4校の日本語関連学科で勉強している学生 233 人を対象とし、日本語専攻の韓国人学習者が日本語を習得する過程で使用している学習ストラテジーの構造を分析することによって、どのような要因が学習者の学習ストラテジーに影響を与えているのかを調査した。その結果、「日本語好き」「来日経験あり」「高校での日本語選択」の 3 つの要因が語彙学習ストラテジーの使用に重要な働きをしていることがわかった。

このような語彙学習ストラテジーと学習の対する態度の関係は、Auttaiem & Pengnate (2015)にも示されている。Auttaiem & Pengnate (2015)は日本語を学習している大学生を対象にし、学習者が選択する語彙学習ストラテジーを調査した。その結果、タイ人日本学習者が使用している語彙学習ストラテジーの現状及びそれぞれの学部の学習者の間に差異があることが分かった。その理由については語調査のアンケートのコメント欄によると、情報学部の学生は日本のアニメや音楽を好む傾向があるに対し、工学部の学生はそのような傾向はなかったことが明らかになった。この研究結果から、学習者の嗜好の違い、そしてそれにともなう学習の動機、あるいはモチベーションが日本語学習に対する態度につながり、語彙学習ストラテジーの選択に影響を与える要因である可能性が示唆された。本研究では、学習のモチベーションを直接的に測定し影響を検討することは困難であるため、学

習に対する態度の他、学習者が日本語学習に成功していると感じること、つまり日本語能力に対する学習者の自己評価が高くなることが、学習のモチベーションが上がることに間接的に影響すると予想し、学習者の自己評価による成功度と語彙学習ストラテジーの関係を検証する必要があると考えた。

以上の点から、本研究では学習者の日本語に対する態度や日本語学習に対する自己評価による成功度が語彙学習ストラテジー選択に影響する要因として、これらの要因とストラテジー選択に着目する。加えて、Auttaiem & Pengnate (2015)のアンケートのコメント欄には、アンケートの選択項目にないメディアや SNS に関する語彙学習ストラテジー（例：Facebook、YouTube 等）についても言及されていた。確かに、語彙学習ストラテジーは固定的なものでなく、時代や技術の進歩等のような因子に影響を受け、変化することが予想される。そこで、今までの先行研究にない語彙学習ストラテジーが使用されている可能性があることも考慮に入れ、本研究ではそのような「新しい」語彙学習ストラテジーにも注目する。以上を踏まえ，本研究では以下の 3 点の仮説をたてた。

① 日本在住タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジーの特徴として日本に住むこと、または日本の環境を利用した語彙学習ストラテジーが多く使用されている。
② 学習者の日本語学習に対する態度及び自己評価による日本語学習の成功度が語彙学習ストラテジーに影響を及ぼす。
③ 現在の技術を利用する語彙学習ストラテジーを活用している。

3. 調査

3.1 対象者

日本在住のタイ人日本語学習者 71 名を対象として調査を行った。日本在住の学習者の語彙学習ストラテジーの傾向及び特徴を検討するために、①「日本で日本語を学習している人、または日本で日本語を学習した経験がある人」②「タイで日本語を学習した経験がなく、日本で日本語を勉強し始めた人」という 2 つの条件を満たす学習者を募集した。

3.2 調査方法

中西 (2008) では、ストラテジー調査の自由記述式アンケートでは学習者はその場で思い出せる情報しか記入しないことを調査の限界として挙げた。そこで、本研究では信頼性の高いデータを収集するために、自由記述式も選択式アンケートも両方実施することにした。

3.2.1 フェイスシート

本研究は学習者の語彙学習ストラテジーと日本語学習に対する態度及び学習の成功度の相関関係を検討するため、学習者の背景並びに意見を調査するためにフェイスシートを利用した。フェイスシートの項目では、①性別　②職業　③所属 (学生の場合のみ) ④日本

滞在期間　⑤日本語学習時間 (一週間に何時間くらい日本語を勉強しているか) ⑥JLPT (どのレベルに合格・不合格したか) ⑦日本語学習に対する態度 (とても好き・やや好き・普通・あまり好きではない・全然好きではない／5段階選択) ⑧日本語学習の理由 (就職・進学・両親・友達・その他から1つ選択) ⑨ (自己評価で) 日本語学習の成功度 (とても・やや・普通・あまり・ぜんぜん／5段階選択) とその理由について質問した。

3.2.2 4段階選択式アンケート

自由記述式アンケートだけのストラテジー調査の欠点について指摘した中西 (2008) では、学習者の語彙学習ストラテジーの予備知識がない場合、その回答は自分の目に見える語彙学習ストラテジーに限定されると述べている。そこで、語彙学習ストラテジーがどのようなものであるか例示する目的で、本研究は自由記述式アンケートの前に、Auttaiem & Pengnate (2015) の結果を参考に選択式の質問をした。Auttaiem & Pengnate (2015) の5段階選択式アンケートで平均値が 3.5 以上であった項目をよく使用されている項目と考え、11項目の語彙学習ストラテジー (表1参照) を利用することにした。その語彙学習ストラテジーを頻繁に使用するかという質問に対して、「いつも使用する」「時々使用する」「あまり使用しない」「全然使用しない」の4段階選択式アンケートを作成した。また、上記の項目にない語彙学習ストラテジーを使用している場合は、その語彙学習ストラテジーも記入してもらった。

3.2.3 自由記述式アンケート

効果な語彙学習ストラテジーについて検討するために、学習者に自分が最も効果的なストラテジーだと思うもの上位3項目を順に記入してもらった。また、どうしてその語彙学習ストラテジーが有効だと思うのかという理由も記入してもらった。

4. 調査結果

4.1 日本在住タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジーの特徴

まず、日本在住学習者の語彙学習ストラテジーの特徴を探るために、選択式アンケートを分析した。表1語彙学習ストラテジー11項目の結果を示す。表1を見ると、4段階評価で最も「いつも使用している」が選択された語彙学習ストラテジーは「学習した語彙で会話をしたり、文を書いたりする」、「辞書や教科書で語彙の意味を探す」、「漢字や文脈を利用して語彙の意味を予測する」、「友達や教師から語彙の意味を尋ねる」である。ストラテジーの項目を参照すると、「辞書や教科書で語彙の意味を探す」を除いて、本研究の学習者によく使用されていたストラテジーは全て日本に住む環境を利用する語彙学習ストラテジーであり、この点では仮説①を支持する結果が得られた。これらは日本在住学習者の語彙学習ストラテジーの特徴である可能性を示唆された。一方で、Auttaiem &

Pengnate (2015) では、上記の語彙学習ストラテジーはいずれも学習者によく使用された語彙学習ストラテジーであったが、今回の結果では「あまり使用しない」と「全然使用しない」が選択されるストラテジーがあった。

表1　語彙学習ストラテジー(選択式アンケート11項目)の結果

項目番号	ストラテジー	いつも		時々		あまり		全然	
		人数	平均	人数	平均	人数	平均	人数	平均
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1	繰り返し書いて暗記する	12	16.9	23	32.3	**24**	**33.8**	12	16.9
2	学習した語彙で会話をしたり、文を書いたりする	**42**	**59.1**	24	33.8	4	5.6	1	1.4
3	辞書や教科書で語彙の意味を探す	**45**	**63.4**	18	25.3	8	11.3	0	0
4	語彙を発音する	25	35.2	**30**	**42.2**	15	21.1	1	1.4
5	自分で語彙の知識を試す　例；日本語で言葉を書いて、タイ語に翻訳する	8	11.3	24	33.8	**26**	**36.6**	13	18.3
6	漢字や文脈を利用して語彙の意味を予測する	**39**	**54.9**	15	21.1	14	19.7	3	4.2
7	語彙学習の目標を立てる	12	16.9	24	33.8	**27**	**38**	8	11.3
8	自分を励ます	11	15.5	23	32.4	**29**	**40.8**	8	11.3
9	学習や暗記の道具として語彙の意味の図をつくる	7	9.8	11	15.5	**32**	**45**	21	29.6
10	友達や教師から語彙の意味を尋ねる	**37**	**52.1**	20	28.2	12	16.9	2	2.8
11	自分が作ったテストを利用して、語彙学習の結果を評価する	5	7	15	21.1	**31**	**43.7**	20	28.1

注：太字の数字は人数及び平均値が高かった群を示す

これには 2 つの理由が考えられる。1 つは、学習者の言語使用環境の違いである。Auttaiem & Pengnate (2015) の学習者は全員タイで日本語を学んでいる学習者であるのに対し、本研究の学習者は全員日本在住で、日本語教育も日本国内で受けている。そのため、必ずしも目標言語環境でなくても使用できるストラテジー (例えば、「自分で語彙の知識を試す」) は積極的に使用するには至らなかった可能性がある。もう 1 つの、先行研究と異なる結果が得られた理由としては、両研究の学習者の日本語能力の違いが考えられる。本研究の学習者の日本語能力試験合格級は N1-N2 の人が多いのに対し、Auttaiem & Pengnate (2015) の学習者が日本語を学ぶ機関の日本語能力試験合格目標レベルは、N4 程度で初級レベルである。これまでの先行研究 (中村 1997 など) では，日本語能力下位群は上位群より多様な学習ストラテジーを使用しており、特に下位群は上位群より「繰り返し書いて暗記する」などの学習を意識的に進めるストラテジーが有意に多用されていることが報告されている。そうであれば、Auttaiem & Pengnate (2015) でよく使用されていた語彙学習ストラテジーが、本研究の調査ではあまり使用されていなかったことについて説明がつく。

次に、学習者が「効果的である」と考える語彙学習ストラテジーを 3 項目自由記述で挙げてもらった。のべ213 の回答のうち、同じ意見であるものをまとめたところ、22 項目の語彙学習ストラテジーが挙げられたことが確認できた。表 2 に、自由回答で得られた、日

本在住のタイ人日本語学習者の考える「効果的である」語彙学習ストラテジー項目とその選択率を示す。表2を見ると、71名の学習者がち最も選択していた語彙学習ストラテジーは、「実際に使ってみる」であることがわかった。「実際に使ってみる」とは、学習した語彙を使用して文を作ったり、実際の会話で使ったりすることを指す。

表2　タイ人学習者が考える「効果的である」語彙学習ストラテジー上位3項目（1－10位のみ）

順位	ストラテジー項目	1位		2位		3位		全体	平均
		人数	%	人数	%	人数	%		
1	実際に使ってみる（会話、文を作るなど）	30	42.3	6	8.5	9	12.7	45	63.4
2	メディア	6	8.5	9	12.7	13	18.3	28	39.4
3	教師や友達から語彙の意味を尋ねる	6	8.5	15	21.1	6	8.5	27	38.0
4	辞書や教科書で意味を探す	6	8.5	8	11.3	6	8.5	20	28.2
5	繰り返し書いて暗記する	5	7.0	4	5.6	6	8.5	15	21.1
6	漢字や文脈を利用して語彙の意味を予測する	1	1.4	3	4.2	10	14.1	14	19.7
7	語彙学習の道具をつくる（ワードリスト、図など）	4	5.6	7	9.9	1	1.4	12	16.9
8	語彙を発音する	0	0.0	3	4.2	6	8.5	9	12.7
9	実践の機会を求める	4	5.6	3	4.2	2	2.8	9	12.7
10	学習の目標を立てる	1	1.4	3	4.2	2	2.8	6	8.5

次に選択されていたストラテジーは、「メディア」であった。「メディア」とは、日本語のニュース、アニメ、テレビ番組、漫画などを利用して、その中に含まれる語彙を学習するというものである。その次に選択されたストラテジーは、「教師や友達から語彙の意味を尋ねる」であった。「教師や友達から語彙の意味を尋ねる」とは、日本人の友達や教師から分からない語彙の意味や用法を尋ねることを指す。このストラテジーについて学習者のコメントを参照すると「เป็นการถามจากคนญี่ปุ่นโดยตรง ทำให้ได้คำตอบที่ถูกต้อง（日本人から直接聞くため正確に語彙の意味や用法を知ることができる）」「คำตอบที่ได้รับมีความน่าเชื่อถือเพราะเป็นคำตอบจากคนญี่ปุ่นเอง（母語話者の回答だから信用できる）」との回答があった。Auttaiem & Pengnate (2015)の学習者は日本語母語話者が少ない環境にいるタイ在住で初級学習者であるため、「教師や友達から語彙の意味を尋ねる」を多用しているにもかかわらず、正確な意味や用法を求めるより、辞書や教科書を引く時間を節約して素早く答えが得られるという目的であったと考えられ、両者のストラテジー選択の目的は質的に異なる。このように、上位3項目の「効果的である」語彙学習ストラテジーを見てみると、日本人が周囲にいる、もしくは日本語が使われるメディアが簡単に入手できる、などという日本語の環境を利用したストラテジーであると考えられる。仮説①を支持する結果が得られた。」

4.2 選択式アンケート項目にない語彙学習ストラテジー

Auttaiem & Pengnate (2015) では、コメント欄に学習者が選択式アンケートにない語彙学習ストラテジーを記入した学習者がいた。このことから、語彙学習ストラテジーは技術の

進歩等のような様々な要因で変化していく可能性があると推察した。それを踏まえ、本研究はもし上記の選択式アンケートの項目にない語彙学習ストラテジーを使っている場合は、そのストラテジーを記入してもらうこととした。結果として、以下のストラテジーが学習者から挙げられた。①意識的に暗記するストラテジー、②メディアを利用するストラテジー、③実践の機会を求めるストラテジーの 3 項目である。まず、11 項目のストラテジーにある「繰り返し書いて暗記する」に対して、①意識的に暗記するストラテジーというのは学習者が何も考えずにただ書いて暗記しようとするのではなく、「語彙を紙に書いて、部屋の見えやすい所に貼って暗記する」、「漢字の由来を検索して、意味と由来の連想をストーリーに結び付けて暗記する」等の様々な方法を工夫して、自分の学習スタイルに合わせて語彙を記憶していると言える。次に、②メディアを利用するストラテジーは、メディアとはドラマ、アニメ、ニュース、テレビ番組、インターネットから語彙を学習するストラテジーである。つまり、これは技術の進歩と共に工夫されている語彙学習ストラテジーとも考えられる。最後に、③実践の機会を求めるストラテジーであり、具体的には、学習者が学習した語彙を使う機会を待つだけではなく、パーティーや飲み会等、その学習した語彙が使える機会を求めることを指している。

以上は選択式アンケートの項目にない学習者が記入した語彙学習ストラテジーであり、仮説③を支持する結果が得られた。

4.3 日本在住タイ人日本語学習者の語彙学習ストラテジーと個人的要因の関係

次に、フェイスシートで質問した学習者の日本語に対する態度と自分の日本語学習の成功度に対する自己評価という 2 つの要因を分析し、語彙学習ストラテジーと個人的要因の関係について検討する。

4.3.1 日本語に対する態度と語彙学習ストラテジーの関係

フェイスシートの質問項目「日本語の学習が好きですか」に対する回答は、「とても好き」が 16 名 (22.54%)、「やや好き」が 26 名 (36.62%)、「普通」が 17 名 (23.94%)、「あまり好きではない」が 12 名 (16.90%)、「全然好きではない」が 0 名 (0%) であった。表 3 に示すのは、日本語学習への態度で分けたグループ別の「効果的である」と考える語彙学習ストラテジー上位 5 項目をまとめたものである。

表3　学習者の日本語に対する態度と学習者の考える効果的な語彙学習ストラテジー（最も選択されたストラテジーのみ）

順位	とても好き		順位	やや好き		順位	普通		順位	あまり	
	16人			26人			17人			12人	
	ストラテジー	%		ストラテジー	%		ストラテジー	%		ストラテジー	%
1	メディア	68.8	1	実際に使ってみる	73.1	1	尋ねる	47.1	1	実際に使ってみる	75.0
2	実際に使ってみる	62.5	2	メディア	34.6	2	実際に使ってみる	41.2	2	繰り返し書いて暗記する	33.3
3	尋ねる	43.8	3	辞書	34.6	3	メディア	41.2	3	尋ねる	33.3
4	辞書	37.5	4	尋ねる	30.8	4	繰り返し書いて暗記する	23.5	4	辞書	25.0
5	繰り返し書いて暗記する	18.8	5	道具	26.9	5	予測	23.5	5	予測	16.7

表 3 から以下のことが明らかになった。まず、日本語学習が「とても好き」グループの学習者が使用しているストラテジーは主に日本語が必要なものであることがわかった。特に半分以上を占めている「実際に使ってみる」と「メディア」は自分が勉強した日本語の語彙を生かすストラテジーである。また、「尋ねる」は自分がまだ意味を知らない語彙や、大体意味は分かっているが確信が持てない語彙を確認するためのストラテジーであると考えられる。さらに、日本語の学習が好きであるため、日本語に関する文化、習慣、情報などに興味を持つようになり、それらに関する「メディア」を利用している可能性も考えられる。その他に、「辞書で語彙の意味を検索する」も少なくないため、このグループの学習者は日本語学習が好きだからこそ、積極的に語彙を学習していると推測できる。次に、「やや好き」グループの学習者の傾向は「とても好き」グループに近い。しかし、「とても好き」グループと比較して、このグループは意味の図やワードリストのような「道具」を作成するストラテジーが目立った。それはよりその語彙の知識を高め、あるいは自分が興味を持っている語彙を記憶に残したいという強い意志で使用しているのだろう。

その他に、「語彙を発音する」ストラテジーと「漢字や文脈から語彙の意味を予測する」ストラテジーも少なくない。「ยิ่งใช้ก็ยิ่งจำได้แม่นขึ้น และนำไปใช้ได้ดีขึ้น（よく発音すれば、よく覚えてきて、効率的に実用ができる」「ทำให้สามารถออกเสียงรวมถึงจดจำหลักในการออกเสียงได้อย่างถูกต้อง（発音や発音ルールを覚えられる）」という学習者のコメントによれば、その語彙に慣れ、日本語母語話者のように発音できるよう、発音するストラテジーを使用していることがわかった。また、「漢字や文脈から語彙の意味を予測する」ストラテジーも漢字と語彙の意味を同時に学習する機会になり、予測の結果が正しくても間違っていてもはっきり記憶に残るとのコメントも見られた。

次に、「普通」グループのストラテジーの使用はかなり散らばりがあり、「実際に使ってみる」「メディア」「尋ねる」の各項目はいずれも過半数を超えないが、これらは主に使用されているストラテジーであることがわかる。その点では「とても好き」と「やや好き」のグループに似ているといえる。ストラテジーの使用に散らばりがある理由として考えられるのは「普通」グループの学習者は、日本語学習が特に好きでも嫌いでもないため、あるストラテジーにこだわらない可能性がある。そのため、回答にも散らばりがあるものと考えられる。

最後に、「あまり好きではない」グループの回答で目立った点は他のグループと違い、「メディア」はほとんどなかったことで、代わりに他のグループにはほとんど選択されていない「繰り返し書いて暗記する」が選択されていたことにある。1 つの可能性としては、フェイスシートによれば、「とても好き」グループの学習者の 16 人の中で 11 人が「どうして日本語を学習するか」という質問に対し、「趣味」だと回答しており、日本語のメディアへの関心を表示している。一方、「あまり好きではない」グループの「どうして日本語を学習するか」という質問項目に対し、「進学」や「就職」という回答が多く、日本語

学習の動機に影響があると思われる日本のメディアへの関心が薄いため、メディアに関するストラテジーを使わないという可能性があると考えられる。一方で、他のグループ同様「実際に使ってみる」はよく使用されている。これは、日本に住んでいるという状況では、「実際に使ってみる」ストラテジーは最も使いやすく、日本語学習とメディアの興味に関係なく、どのグループの学習者でも使用しやすいものであることを示していると考えられる。

4.3.2 学習者の自己評価の成功度と語彙学習ストラテジーの関係

フェイスシートの質問項目「あなたは日本語の学習に成功していると思いますか」に対する回答は、「とても成功している」が 8 名 (11.26%) 、「やや成功している」が 25 名 (35.21%) 、「普通」が 27 名 (38.02%) 、「あまり成功していない」が 11 名 (15.49%) 、「全然成功していない」が 0 名 (0%) であった。「とても成功している」と回答した学習者は少数であったため、以下では「とても成功している」と「やや成功している」と回答した学習者をまとめて分析することとする。

表4 学習者の自己評価による日本語学習の成功度と学習者の考える効果的な語彙学習ストラテジー（最も選択されたストラテジーのみ）

順位	とても成功している		順位	やや成功している		順位	普通		順位	あまり成功していない	
	8人			25人			27人			11人	
	ストラテジー	%		ストラテジー	%		ストラテジー	%		ストラテジー	%
1	辞書	50.0	1	実際に使ってみる	68.0	1	実際に使ってみる	66.7	1	実際に使ってみる	63.6
2	実際に使ってみる	37.5	2	メディア	56.0	2	メディア	33.3	2	尋ねる	54.5
3	尋ねる	37.5	3	尋ねる	40.0	3	尋ねる	29.6	3	メディア	27.3
4	繰り返し書いて暗記する	25.0	4	予測	32.0	4	辞書	25.9	4	繰り返し書いて暗記する	27.3
5	メディア	25.0	5	辞書	28.0	5	繰り返し書いて暗記する	25.9	5	目標を立てる	27.3
	道具		-	-	-		道具	25.9	-	-	-

表 4 は、学習者の自己評価による日本語学習の成功度で分けたグループ別に「効果がある」と考える語彙学習ストラテジー上位 5 項目をまとめたものである。表 4 から以下のことが明らかになった。まず、「とても成功している」及び「やや成功している」を選択した学習者グループは「実際に使ってみる」、「メディア」、「尋ねる」を多く使用している。これらのストラテジーは自分が住んでいる環境、つまり日本に住んでいるという環境を生かして一番容易に使えるストラテジーだと言えるだろう。また、「とても成功している」グループは「辞書」、「繰り返して書いて暗記する」を多用しており、「やや成功している」グループの方も「予測」と「辞書」というストラテジーを多用し、家での復習または予習で使われるストラテジーだと推察でき、「実際に使ってみる」、「メディア」、「尋ねる」以外に補償ストラテジーとして使われるものである。次に、「普通」グループは最も人数が多いグループで、使用しているストラテジーもかなり散らばりがあったが、その中で目立っているのは「とても成功している」と「やや成功している」グループと同じく「実際に使ってみる」、「メディア」、「尋ねる」というストラテジーが選択されていることだ。選択された理由として考えられるのは「実際に使ってみる」、「メディア」、「尋ねる」いずれも学習者にとって日本に住む環境を利用して容易に使用できるストラテ

ジーであるためだろう。最後に、「あまり成功していない」グループの最も多く使われるストラテジーも他のグループと類似した傾向にあり、「実際に使ってみる」、「尋ねる」、「メディア」であった。つまり、この3つのストラテジーは成功の程度に関わらず、日本在住の日本語学習者にとって自分が住んでいる環境を利用してより容易に使用できるストラテジーであると言えるだろう。また、同時に、学習者の日本語学習に対する成功度は、選択するストラテジーの決定的な要因にはならないことを意味すると考えられる。

5. まとめと今後の課題

以上の調査の結果から、日本在住学習者の語彙学習ストラテジーの特徴や個人的要因の関係が明らかになった。調査からは、日本在住のタイ人学習者の場合、現在おかれているJSL環境で利用しやすいストラテジーが優先的に選択されていることがうかがえた。これは、学習者全般に言える傾向であった。また、選択されるストラテジーと個人的要因との関連については、日本語学習への態度がストラテジー選択に影響している可能性が示唆された。一方で、日本語学習に成功したと考えるかどうか、という学習者の自己評価はストラテジーの選択に影響していないという可能性も示唆された。

今後は、本調査の学習者から挙がった、これまでのストラテジー研究では扱われてこなかった語彙学習ストラテジーの項目を参考に、タイ在住の学習者の語彙学習ストラテジーと各要因との関係や語彙学習ストラテジーの特徴について調査し、タイ人日本語学習者にとって効果的な語彙学習ストラテジーを明らかにしたい。

6. 参考文献

中西泰洋 (2008) 「日本語学習者の漢字・語彙の学習方法について」『神戸大学留学生センター紀要』14,pp. 21-27

中村重穂 (1997) 「日本語学習者の漢字学習ストラテジーに関する調査と考察」『日本語教育研究』33, 107-122.

朴一美 (2010) 「学習ストラテジーと韓国人日本語学習者要因との関係」『人文社会科学論叢』19号 pp.75-90

横須賀柳子 (1995) 「日本語の語彙における学習ストラテジー」 『日本語教育の課題』pp.219-248,東京堂出版

Auttaiem, T. & Pengnate, W. (2015) *Learning Strategies in Japanese Vocabulary of Thai-Nichi Institute of Technology Students in JPN Courses*. ICLEP 2015 pp. 29-41

Nation, P. (2001) *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press

Oxford,R.L. (1990) *Language Learning Strategies* :what every teacher should know. New York: Newbury House. (宍戸通康／伴紀子(訳) (1994)『言語学習ストラテジー』凡人社)